

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102914
法人名	特定非営利活動法人グループホームしいのみ
事業所名	グループホーム紫竹庵
所在地	松山市山越2丁目11-35
自己評価作成日	平成28年8月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームに入所をしても誰もが自分家だと思える環境を作っています。一般住宅の改修型で、外観も内装も普通の家と全く変わりはありません。職員も利用者さんと同じように過ごす為、来訪者の方が談話室でキョロキョロと職員を探すほど溶け込んでいます。地域の皆様からも認知されていき、お年寄りの困り事や駐車場の紹介までなんでも相談に乗れる地域に溶け込んだホームとなっています。理念の「寄り添いあい、笑いあう、マイホーム」の通り利用者さんも自分の家・地域のように過ごして下さっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所の方達との関係も深まっており、野菜の苗をくださり、育て方を教えてくれたり様子を見に来てくれたりする。地域行事には積極的に参加しており、利用者が地域の方達と一緒に楽しめるよう支援している。松山大学の部活の学生がボランティアに来てくれて一緒に遊んだり、敬老会の付き添いや庭木の剪定等も行ってくれる。  
会議は、利用者のいる居間で行っており、民生委員や独居高齢者見守り隊の方等が参加している。メンバーに、会議テーマについてアンケートを取り、「認知症予防について」「地震対策について」等、興味のある内容をテーマにして勉強会や意見交換を行っている。  
利用者のライフスタイルに合わせて支援しており、調査訪問時には、遅めの朝食をとった利用者の昼食は、みなど少し遅らせて準備をしていた。又、利用者の言葉を職員は笑顔で聞いており、歌が好きな利用者が、手持ち無沙汰な様子の時には、歌本を用意して歌を歌って過ごせるよう支援していた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム紫竹庵

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

菊池仁美

評価完了日

28年 8月 7日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者・職員共に地域の皆様と顔なじみの関係ができており、互いに気軽に声をかけ合っている。理念を全職員が共有できており、利用者・地域と寄り添いながらの生活を送れている。	
			(外部評価) 職員で話し合っ「寄り添い・笑いあう・マイホーム」と理念をつくっており、事務所や居間に掲示している。職員同士で意見が食い違う時等には、理念に立ち戻り考えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) イベント参加や地域の施設の利用により、地域住人の方から声をかけていただける関係作りができています。職員が地域の方々と交流を深めることにより、利用者とかかわりを持ていただける機会がととも増えた。	
			(外部評価) 近所の方達との関係も深まっており、野菜の苗をくださり、育て方を教えてくれたり様子を見に来てくれたりする。地域行事には積極的に参加しており、利用者が地域の方達と一緒に楽しめるよう支援している。松山大学の部活の学生がボランティアに来てくれて一緒に遊んだり、敬老会の付き添いや庭木の剪定等も行ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等で認知症の勉強会を行ってきた。地域の方から認知症に関する相談を気軽に持ち掛けて来られている。実際に徘徊中のお年寄りを連れて来られて、共に対応をさせていただいた事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 活動状況の報告を行い、会議参加者の皆様からご意見をいただいている。市・地域住人・講師の多方面の意見により、全員でサービス向上に適した方向性を見いだせている。</p> <p>(外部評価) 会議は、利用者のいる居間で行っており、民生委員や独居高齢者見守り隊の方等が参加している。メンバーに、会議テーマについてアンケートを取り、「認知症予防について」「地震対策について」等、興味のある内容をテーマにして勉強会や意見交換を行っている。家族参加については、それぞれに事情があり、参加することは少ない。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、事業所の取組みと実情を見ていただいている。市職員の見学を随時受け入れており、民家改築型・少人数制ならではの事業所の特徴を紹介させていただいている。高齢者の徘徊者搜索のネットワークにも参加し、互いに協力関係を築けている。</p> <p>(外部評価) 松山市が取り組む松山市認知症高齢者SOSネットワーク(おまもりネット)に登録しており、徘徊者の連絡があった際には、散歩等しながら搜索に協力している。そのような時に、別の徘徊者を見つけるようなこともあり、警察や自宅等への連絡等してサポートしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内研修を通し、職員全員が身体拘束の具体的な内容を理解している。ご家族から身体拘束の希望を出されることもあるが、ギリギリまで身体拘束をしない生活が送れるよう職員一同で意見を出し合い最良のケアを行えるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 玄関には鍵をかけず、チャイムが鳴るようにしている。玄関から前の通りまでの通路は、居間の窓から見えるため、人の出入りが分かる造りになっている。利用者の中には、自宅にいる頃からベッド柵を施していた方がおり、家族からの希望もあり、同意書を取って入居後もベッド柵を施しているようなケースがある。日中は居間で過ごせるよう、くつろげるスペースを用意しており、周囲にクッションを付け、必要時に手袋をつける等して支援していた。</p>	<p>利用者の状態のこともあるだろうが、本人の安全と自由の両面から「本人にとってどうか」という視点で支援のあり方について定期的な話し合いを重ねていってほしい。介護計画等にも採り入れながら家族と話し合い、支援に取り組んでほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的社内研修を通して職員全員で学ぶ機会を持っている。日頃のケアからご家族の様子まで職員間で話し合いやすい状態を作っている為、気になる事はすぐに検討・対応に移せている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について研修会などを行ってきたが、職員の異動や該当利用者の退去等により認知度が下がってきていると思う。今後外部研修会などで職員への学ぶ機会に繋げていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ホーム見学時・契約時・相談時に十分説明をさせていただいている。疑問点が発生した時にはお電話・お手紙で随時対応しており、ご理解いただけるよう最善を尽くしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員とご家族で話しやすい関係作りができており、来所時やお電話でご意見や要望をいつでも出している。利用者やご家族の意見をケアプランに反映し、職員全員で共有しケアに生かしている。 (外部評価) 利用者の様子のコメントに写真を貼り付けて個別の便りを作り、毎月家族に送付している。又、家族の実情に合わせて電話や来訪時、手紙等で利用者の健康状態や食事、排泄、入浴等の状況を報告している。家族のサービスの満足度は高く、「安心して任せる」と言う方が多い。	利用者は家族との関係をとても大切に思っている方が多く、今後はさらに、家族と一緒に活動するような機会や場面を作り、家族とともに利用者を支えていくような取り組みにも力を入れてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りや会議以外でも、職員は気軽に意見や提案を上げている。すぐに出来そうなものは、職員間で話し合い反映させている。すぐできないものは、代表者と管理者で話し合い反映に向けて努めている。	
			(外部評価) 現在、夜勤のみの職員や行えるケアに制限がある職員が複数いるが、本人や家庭環境の都合を踏まえて「できることを行う」ことで協力し合って取り組んでいる。希望休み等も取りやすくして働きやすい職場作りに努めている。日中に職員会議を行っており、夜勤職員は参加することが難しく、申し送りや記録をみて内容を確認している。又、外部研修の受講も難しい面があり、管理者が現場で具体的に指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員個々と会う機会を定期的に設け、職員の実情把握に努めている。管理者を通し職員の勤務姿勢を把握し、個々の努力に応じた職場環境の整備にも配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員個々の実際の力量を把握し、個々に似合った研修を受けやすい機会を設けている。代表者はその時々々に似合った社内研修も随時行い、働きながらトレーニングできる環境づくりをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会の参加を通し他事業所の同業者と交流ができてい。地域のイベント会に参加することにより、近隣の事業所とも顔見知りになり、互いの行事に声をかけ合っている。最近では停滞気味になっている、グループホームの連絡会も復活できたらと考えている。	
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用を開始した時点で職員全員でセンター方式を活用し、利用者の要望に傾聴する姿勢が取れている。利用者にとっての職員一人一人の役割を把握し、安心できる関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用を開始するにはご家族との面談に十分な話し合いの時間をかけて、小さな要望や不安なことも耳を傾けている。その後も要望がどのように反映されたか、本人の経過と共にお伝えしてよりよい状態になるよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用を開始した時に連携する医療・地域等と早急な話し合いができる関係作りができています。まず必要な支援を多方面から見ることにより適切に見極められるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者個々の残存能力を把握し、できる作業をさりげなくお願いすることにより共に行う作業ができています。車椅子の方にも荷物を膝に乗せて物を運ぶ等と作業をしていただき、自然と「ありがとうございました」と声をかけ合える関係作りができています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態把握がご家族もしやすいよう、来所持にご説明やお手紙・電話等で情報共有をしている。本人の困っていることをご家族と話し合い必要物品の購入や外出支援をしていただき、職員と共に本人を支え合える関係ができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時間を特別に設けず、仕事帰りのご家族も面会に来やすい状態を取っている。ご友人との外出もすることができ、ドライブでは昔住んできた地域や仕事で通っていたところに足を運んでいる。 (外部評価) 利用者は家族とのつながりをとても大切に思っており、利用者から外出や衣類の購入等の希望があれば、家族に報告して支援してもらえようお願している。難しい場合は職員が支援している。家族や親せき等の来訪時には写真を撮ってA4サイズに伸ばし、ラミネートして居室に飾り、時々話題にして家族との関係を続けていけるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を把握し、内気な方や入居したばかりの方には声掛けをし輪の中に入りやすい環境作りに努めている。外出等楽しみを共にする者同士や、お手伝い等の作業を共にする者同士でいろいろな方と支え合えるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も気軽に連絡を取れるよう、退去する際にも声をかけさせていただく。ご家族からの要望の連絡があった際には早急な対応ができており、ご家族からも安心の声をいただいている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の言葉や行動・表情等を日誌に記入し、その都度又は会議の時等に話し合いをし思いを共有している。困難な場合は過去のアセスメントやご家族のご意見も聞き、本人本位になるよう努めている。 (外部評価) 入居時には、心身の情報シートに利用者の暮らしの希望についての情報を記入している。入居後は日々の会話の中で聞いたり探ったりしている。利用者が自宅で過ごしていた時のタイムスケジュールを家族が居室に掲示しており、職員はそれを見ながら自宅での過ごし方と大きく変わらないように支援している。	さらに、入居後に得た情報を整理して、利用者の思いや意向に沿った支援につなげてほしい。意思表示が難しくなっても、利用者が心地よく過ごせるような取り組みにつなげてはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 普段の行動・言動から考察した生活状況や、ご家族のお話で知れた情報をアセスメントや日誌に残し全職員が状態把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送りを実施し、一日の過ごしたかを共有している。定期的に行う会議や緊急会議にてモニタリングを随時行い、刻々と変わる状態を必ず記入し状態把握ができやすい環境作りをしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人の課題や状態に変化が現れた時には、その場で話し合ったり月例会議で意見を出し合ったりしている。必要に応じてご家族・主治医にも意見を出していただいている。意見を出すのを遠慮されるご家族には、話しやすいタイミングやお電話・手紙も活用し意見の反映に心掛けている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は3ヶ月ごとに見直すようになっており、職員会議時のカンファレンスで職員の意見を聞き取り作成している。利用者の暮らしの希望については、本人の言葉をそのまま記入していた。介護計画書は見やすいように、太字の大きな文字で記入していた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 本人の行動や発言・職員の対応後の様子まで細かく記入をしている。そして朝夕の申し送り時に情報共有を行っている。状態の変化などにも職員が気づいた時点で声を上げ、モニタリングを行い介護計画の見直しにも活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご家族の来所持やお電話などで状況や心情を把握し、本人の置かれている状況を考慮しつつ柔軟に対応している。必要な場合は他事業のサービスも紹介しつつ、その時最善と思われるサービスを支援できるよう心掛けている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) いつも買い物に行くお店の方々、美容室・移動パン屋さんなど利用者の地域との繋がりや交流を把握している。顔馴染みの方々や地方祭への参加をし、できる事好きやな事への支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居時に主治医の説明を行い、本人とご家族から納得を得てから支援を行っている。新たに関わる医師とも適切に連携を図れるよう努めている。専門病院の受診が必要な際には、本人・ご家族・主治医・管理者で話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 協力医は、ほぼ毎日来ており、事業所や利用者の状況をよく知ってくれている。看取り支援時には、必要に応じて往診や相談に乗ってくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 介護中の気づきや異変、本人の訴え等はすぐに管理者を通して訪問看護師や主治医に伝えて対応している。緊急を要する場合であっても24時間対応で受診や看護を受けられるような体制を連携している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院が必要になった時、管理者は本人の情報を病院関係者やご家族に報告し相談に対応している。その後も医師や看護師と密に情報交換を行い、ホームでの対応や退院に必要な準備や意見をもらい早期退院を目指して支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時点で重度化した場合の話し合いの場を持ち、本人・ご家族からの終末期の希望を伺っている。この際にホームでできる終末期ケアの内容を説明し、必要がある時にはホーム主治医からの説明の場を設ける。実際に終末期に近づいた時に再度確認を行い、心境の変化にも対応し必要な関係者と連携をはかり全体で支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) この一年間で1名の看取りを支援した事例がある。床ずれのケアに力を入れて、気持ちよく過ごせるよう取り組んだ。又、食べることが好きだった方だったため、食事の形態等を工夫して最期まで口から食べられるように支援した。「これからどうなるか」今後のことを不安に思う職員もいるが、管理者は「今できることを精一杯支援しましょう」と話し、いつでも駆けつけることを伝えている。家族には、利用者にとっての家族の存在について話し、かかわってもらえるよう話した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 市から通知・ヒヤリハットや事故報告書から今後起きそうな事故・急変・災害に備えて社内研修等で応急手当の勉強会・訓練を行っている。しかし勉強会になかなか参加ができない夜勤職員への訓練ができていないので、機会を設けたいと考える。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自主避難訓練と消防署の指導のもと行う消防訓練にて避難方法を身に付けている。社内研修や運営推進会議にて勉強会を行い、地域住人の方とも利用者の避難様子・必要な避難手助けの援助を学んでいる。地域の担架や防災グッズの貸し出し協力も得られている。ただ、夜勤職員への訓練参加が難しく、勉強会のみとなっている。 (外部評価) 年2回、消防の協力を得て避難訓練を行っており、又、月1回は防災について意識を高められるように、勉強する機会や点検、自主訓練等の機会を作っている。地域の自主防災訓練にも参加している。備蓄については、水やおむつを備蓄しているが、いざという時のためにも、必要品を必要量確保できるような取り組みをすすめてほしい。	夜勤専門の職員は、避難訓練を行った記録をみてシミュレーションを行うようだが、災害はいつ起こるか分からないことでもあり、実際に訓練を行えるよう取り組んでほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の性格や特技を把握しており、その方が自信を持てるお手伝いなどを率先して行っていただいている。得意なことができなくなっても、職員がさりげなくサポートをし遂行できる。自尊心を傷つけない声掛けをし、笑顔が出る生活を送れるよう努めている。 (外部評価) 利用者のライフスタイルに合わせて支援しており、調査訪問時には、遅めの朝食をとった利用者の昼食は、みなと少し遅らせて準備をしていた。又、利用者の言葉を職員は笑顔で聞いており、歌が好きな利用者が、手持無沙汰な様子の中には、歌本を用意して歌を歌って過ごせるよう支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 理念の中にある「寄り添い」を大切にし、本人の話をじっくり傾聴し希望をくみ取っている。意思表示のしにくい方には「はい、いいえ」で答えられる簡単な質問で自己決定ができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活リズムや好みを優先して支援している。本人の気持ちや体調面を考慮し、職員側の希望を本人に相談し無理強いはしないようにしている。外出や行事なども本人の要望に沿った支援をしているため、利用者の方々からも意見を気軽に訴えてくれている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室選びから本人の要望に沿って行っている。外出時には季節に合った洋服を職員と一緒に選び、「写真に撮ってね」と喜ばれる。お誕生日パーティーやご家族との外出時など特別な日にはお化粧品も行い楽しんでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むきや調理のお手伝いを職員と一緒にいただき、好みの食材や味付けをしていただいている。お手伝いができない方には使用する食材を実際に見ていただいたり、食事の出来上がりを楽しみにしていただいている。後片付けなども共に行い、食べ終わった後の達成感も共感している。	
			(外部評価) 共用型の通所を利用する方が、昼食に職員と一緒にちらし寿司を作ってくれて、利用者と一緒に食べていた。他利用者が「若い頃よく食べに行ったうどん屋のお寿司と同じ味だ」と褒めていた。日常の食事は利用者には何が食べたいか聞いたり、冷蔵庫の中を見ながら献立を決めており、最近は麺類が多い。誕生日や退院祝い等は外食等している。栄養面については、3ヶ月に1回の血液検査の結果をもとにして、おやつや油ものを控える等して加減をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人の食事量や必要な水分量を職員は把握しており、申し送りを通して日勤夜勤で協力して1日分確保している。水分を拒否される方には、好みの飲み物で拒否なく飲んでいただいたり食事に水分を多く含ませる工夫をしている。体重減少が気になる方にはプロテインや間食を増やし、体重管理をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨きをできる方には毎食後声掛けを行い、見守りにて本人にしている。できない方、入れ歯の方は職員で義歯の洗浄と口腔内のチェック・ケアを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 本人のタイミングやお食事の後・外出前にトイレの声掛けを行い、失敗やおむつの使用をしなくても過ごせるよう支援している。一人でトイレに行く機会の多い方は、トイレの場所がわかりやすいよう張り紙や居室の配置などによって迷うことなくトイレに間に合うよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) トイレが込み合う時のために、浴室の脱衣所にポータブルトイレを置いて使用している。それぞれの状態やパターンに応じて声かけや誘導して支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便秘から引き起こされる利用者一人一人の影響を理解し、便秘予防に努めている。下剤ばかりに頼らず便通をよくする食材の購入や、水分補給を嫌がる方にはみかんジュースなどで喜んで水分補給をしていただいている。お天気のいい日には本人の体調を見ながら散歩に出て運動を行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 長湯が好きな方、ゆっくり入られるのが好きな方、体質で汗っかきな為毎日入りたい方等、その方に合った入浴支援・ご希望の支援をしている。体質に合ったシャンプーを購入したりし、入浴を楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) 入浴介助を担当する職員2名が情報交換しながら支援している。利用者個々に希望や状態に応じて、毎日入浴する方、2日に1回の方、3日に1回の方等があり、朝風呂を支援するケースもある。介助に男性の力がほしい場合は、系列事業所から職員がサポートに来てくれる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人の様子を見て、必要な休息を日中でも取れるよう支援している。一日の活動状況や夜間の入眠具合、その方の生活習慣を把握し入眠しやすいタイミングの支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は管理者が行っている。誤薬を防ぐため薬を扱う職員を限定し、内服時には職員2名で確認を行っている。薬の用法・副作用を管理者が把握しており、症状の変化が現れた時には管理者から調剤薬局・主治医に連絡をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人のアセスメントができており趣味や好みを把握している。お手伝いやレクリエーション等でその方が力を発揮できる場面を作る支援をしている。時にはその方のご希望の外出やお祭り・ピクニック等にもでかけ気分転換ができています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の体調やその日の天候を見て外出を支援している。本人の希望が出れば計画を立てて普段は行けない場所への外出も行えている。人手が必要な時には学生ボランティアさんへの協力をお願いしたり、ご家族と協力し外泊なども行っている。	
			(外部評価) 出かけることが好きだった利用者の終末期には、床ずれのケアに力を入れて取り組み、座ることができるようになった。その結果、庭に出て過ごす支援ができたような事例がある。散歩に出かけたり、大学生ボランティアの協力を得て、地域行事に参加したり、外出やおやつを楽しみに出かけるようなこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金を管理することはできないが、本人ができる場合はお金の所持をしていただいている。毎週来られる移動パン屋さんで好きな商品を選び、支払いをしていただいている。お金の所持が難しい方でも、買い物の支払い時にお金を手渡ししたりし、支払いのお手伝いを通して買い物の満足感を得ていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族にこちらからお電話をする時や、ご家族から電話がかかってきたときは本人にかわり楽しんでいただいている。毎月送っている本人の写真にご希望があれば、本人に一筆添えていただいたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースには利用者が普段触れないものやわからないものは設置しないようにしている。不穏になったり混乱される方には、わかりやすくなるよう張り紙や配置変えなどを行っている。食事テーブルを夏には風通しのよいところに、冬には陽当たりが良いところに移動したりしている。季節の花を植えたり、飾ったりして心地よい空間作りをしている。</p> <p>(外部評価) 民家改修型で、利用者に馴染みのある造りやしつらえ、雰囲気がある。台所と食堂、居間が一間続きでスペースに限りがあるが、窓が大きく取っており、庭の草木が見えて開放感がある。車いすが移動するスペースを確保して、テーブル席等も工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファやテーブル席などをその時々に応じていろいろ使用している。落ち着きたい時や一人で過ごされるのが好きな方には一人掛けソファを利用していただいたり、仲良しの方と過ごされたい方は2人掛けソファやテーブル席と一緒に作業をされたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 契約時にご家族と荷物の相談をし、使い慣れたものの持ち込みをお願いしている。荷物の配置は本人と相談しながら行っている。その方の好みに応じて、ご家族との写真や人形・お花等を飾ったりされている。</p> <p>(外部評価) 利用者の身体状況や癖等も踏まえて、ベッドの向きやタンス等の位置を決めている。家族が買って来てくれた洋服をハンガーにかけていたり、位牌に毎日お茶を供えることを日課にしている方や、囲碁や将棋のテレビ番組をじっくり見ることを楽しみにしている方等、それぞれのこだわりやライフスタイルが継続できるようにサポートしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人一人のできる事やわかる事を把握して共に作業を行ったり支援している。何かのきっかけにできる事を見いだす事があるので注意深く観察も行っている。</p>	